



C2-2855 ユニバーサルスケーラープラス
C2-2755 ビデオスケーラープラス
C2-2655 スキャンコンバータープラス

取扱説明書



■安全上の注意

この度は tvONE 製品をお買いあげいただき、ありがとうございます。機器のセッティングを行う前に、この取扱説明書を十分にお読みください。この説明書には取り扱い上の注意や、購入された製品を最適にお使いいただくための手順が記載されています。長くご愛用いただくため、製品のパッケージと取扱説明書を保存してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・必ず付属の電源アダプター、電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。また、付属の電源アダプター、電源ケーブルを他の製品で使用しないでください。
- ・AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- ・分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- ・雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源ケーブル・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



注意 この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- ・万一、落したり破損が生じた場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- ・以下のような場所には設置しないでください。
直射日光の当たる場所 / 極度の低温または高温の場所 / 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所 / 風通しの悪い場所
- ・配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ・ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ・廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

■目次

■安全上の注意	2	5.2 ショートカットとライブメニューのツリー	10
■目次	2	5.3 バックグラウンド	11
【1】クイックスタート	3	5.4 オーディオ	11
1.1 製品の概要	3	5.5 レイヤーの順序	11
1.2 梱包内容	4	5.6 キーイング	12
1.3 C2-2X55接続	4	5.7 フリーズ	12
1.4 メニューの概要	4	5.8 プリセット	12
1.5 出力解像度の設定	4	5.9 ロゴ	12
1.6 スイッチング	4	5.10 トランジション	12
1.7 アーキテクチャ	5	【6】一般的な操作	12
1.8 入出力	5	6.1 ソースと出力の設定	12
【2】フロントパネル	6	6.2 ソース選択	12
2.1 概要	6	6.3 トランジションのカスタマイズ	12
2.2 使用方法	6	6.4 PIR(ピクチャーインピクチャー)効果の作成	13
2.3 OLEDディスプレイ概要	6	6.5 バックカラーの追加	13
2.4 プライマリ/バックグラウンドのインジケーター	6	6.6 静止画を背景として追加	13
【3】メニュー概要	7	6.7 ロゴの追加	14
3.1 レイヤーコントロール	7	6.8 パナーの作成	14
3.2 レイヤーの入替	8	6.9 オーディオソースの選択	14
3.3 外部同期、フレームロックと非表示	8	【7】設定メニュー	14
3.4 スケーリング概要	8	7.1 初期設定	14
3.5 アスペクト変換	8	7.2 接続	14
3.6 ロゴの挿入	8	7.3 設定メニュー	15
3.7 静止画(SIS)の挿入	8	7.4 出力	17
【4】ボタン操作	9	7.5 プリセット	17
4.1 電源をオンにする	9	7.6 レイヤー	18
4.2 ボタンの色	9	7.7 バックカラー	18
4.3 メニューのナビゲーション	9	7.8 ゲンロック(同期)	18
4.4 ソースの選択とプリセットの読み込み	9	7.9 レイヤーの順序	18
4.5 そのほかの便利な選択	9	7.10 キーイング	18
【5】ショートカットとライブメニュー	10	7.11 プリセット	18
5.1 概要	10	7.12 トランジション	19

[1] クイックスタート

1.1 製品の概要

tvONE C2 製品をお買い上げいただきありがとうございます。本書は C2-2855、C2-2755、C2-2655 共通の取扱説明書です。モデルによっては、対応する機能が異なります。詳細は下記表でご確認ください。

C2-2855 は静止画とロゴレイヤーをサポートし、先進のユーザーインターフェースを持つ 6 入力のユニバーサルスケーラ / スイッチャーです。C2-2855 は 6 入力 5 出力のビデオ入出力とフェニックスコネクタと 3.5mm Φコネクタのオーディオ入出力を備えています。

以下の表はモデルによる主な違いを示しています。C2-2855 はこの取扱説明書で説明するすべての機能に対応しています。C2-2655 と C2-2755 は入出力数と対応する出力解像度が少ないモデルです。

1.1.1 入出力接続

Model	HDMI In	DVI-U In	YC In	CV In	SDI In	PC/HD In	HDMI Out	DVI-U Out	YC Out	CV Out	SDI Out
C2-2855 Universal Scaler PLUS											
C2-2755 Video Scaler PLUS								DVI-I only			
C2-2655 Scan Converter PLUS											

1.1.2 出力解像度サポート

Model	NTSC 525i	PAL 625i	640x480 60Hz	640x480 67Hz	640x480 72Hz	640x480 75Hz	640x480 85Hz	640x480 117Hz	640x480 138Hz	720x480 59.94Hz	720x576 50Hz	800x600 56Hz	800x600 60Hz	800x600 72Hz	800x600 75Hz	800x600 85Hz	800x600 95Hz	800x600 112Hz	
C2-2855 Universal Scaler PLUS																			
C2-2755 Video Scaler PLUS																			
C2-2655 Scan Converter PLUS																			
	1024x768 59.94Hz	1024x768 60Hz	1024x768 70Hz	1024x768 75Hz	1024x768 85Hz	1024x768 89Hz	1280x720 23.98Hz	1280x720 24Hz	1280x720 25Hz	1280x720 29.97Hz	1280x720 30Hz	1280x720 50Hz	1280x720 59.94Hz	1280x720 60Hz	1280x768 60Hz Rb	1280x768 60Hz	1280x768 75Hz	1280x768 85Hz	
C2-2855 Universal Scaler PLUS																			
C2-2755 Video Scaler PLUS																			
C2-2655 Scan Converter PLUS																			
	1280x800 60Hz Rb	1280x800 60Hz	1280x800 75Hz	1280x800 85Hz	1280x960 60Hz	1280x960 72Hz	1280x960 85Hz	1280x1024 60Hz	1280x1024 70Hz	1280x1024 75Hz	1280x1024 85Hz	1360x768 60Hz	1365x1024 75Hz	1400x900 60Hz	1400x1050 60Hz Rb	1400x1050 60Hz	1400x1050 75Hz	1600x1200 60Hz	
C2-2855 Universal Scaler PLUS																			
C2-2755 Video Scaler PLUS																			
C2-2655 Scan Converter PLUS																			
	1680x1050 60Hz	1920x1080i 47.96Hz	1920x1080i 48Hz	1920x1080i 50Hz	1920x1080i 59.94Hz	1920x1080i 60Hz	1920x1080i 23.98Hz	1920x1080 24Hz	1920x1080 25Hz	1920x1080 29.97Hz	1920x1080 30Hz	1920x1080 50Hz	1920x1080 59.94Hz	1920x1080 60Hz	1920x1080 50Hz Rb	1920x1200 60Hz Rb	1920x1200 75Hz	1920x1200 85Hz	
C2-2855 Universal Scaler PLUS																			
C2-2755 Video Scaler PLUS																			
C2-2655 Scan Converter PLUS																			

1.2 梱包内容

万が一足りないものがありましたら、購入された販売店までご連絡ください。

- ・本体× 1
- ・電源アダプター× 1
- ・USB メモリ (内容: 英文取扱説明書とソフトウェア)
- ・ゴム足× 4

※ www.tvone.com/support から最新のファームウェアをダウンロードし、アップグレードしてください。

1.3 C2-2x55 接続

初めてお使いになるときは、電源と入出力信号、必要に応じて制御用 PC を接続します。



※上記画像は C2-2855 です。お手持ちのモデルによっては存在しない端子もありますのでご注意ください。

1.4 メニューの概要

C2-2X55 には 3 つのメインメニューがあります。

Live	プリセット、スイッチング機能を提供
Shortcuts	ユーザー設定への迅速なアクセスを提供
Setup	システム設定を構成

1.5 出力解像度の設定

[Setup] > [Outputs] > [Video] > [Resolution] メニューから任意の出力解像度を設定可能です。モデルに応じて多くの解像度から選択できます。

1.6 スwitching

通常 C2-2X55 はプリセットとソース切替を使って演出します。

1.6.1 プリセット切替

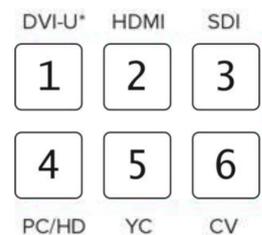
プリセットボタン

フロントパネルのプリセットボタンを押してプリセットモードにします。次に該当するプリセット番号のボタン(1~6)を押します。

1.6.2 ソース切替

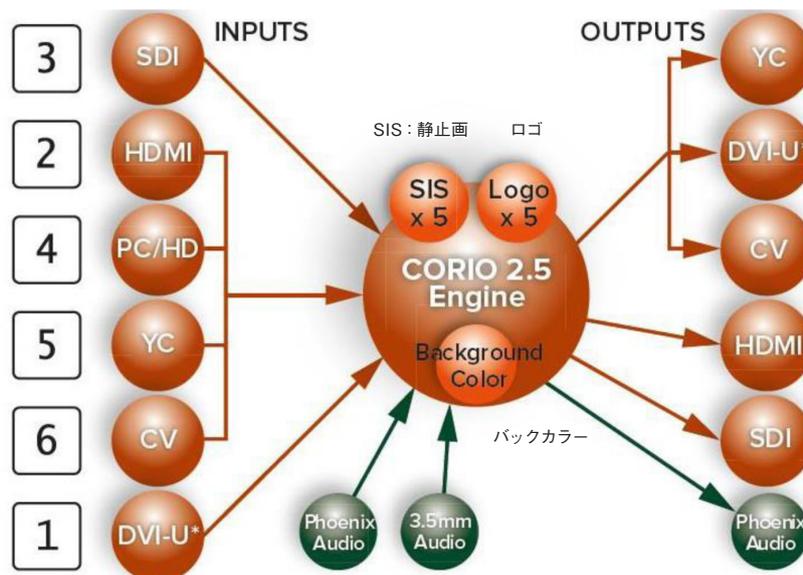
バックボタン (戻るボタン)

バックボタンを押してメインメニューに戻ります。プライマリ入力の切替は [Live] > [Primary] と押して該当するソース番号のボタン(1~6)を押します。バックグラウンド入力の切替は [Live] > [Background] と押して同様の操作をします。



1.7 アーキテクチャ

C2-2X55 は CORIO2.5 エンジンコアにて、ビデオ入出力、スケーリング、スイッチング、レイヤリング、オーディオ、静止画およびロゴレイヤリングをマネージメントします。



6つのビデオ入力は、3つのゲートでスケーリングエンジンに送られ、3つのゲートで5つの出力に送られます。DVI-U 入出力は変換アダプタを使って HDMI、PC/HD、YC、CV を直接接続できます。

※ C2-2655 は SDI 入力をサポートしていません。C2-2755 は DVI-I 出力のみをサポートしており、SDI、YC、CV 出力をサポートしていません。
オーディオ入力はフェニックスコネクタ (3x ステレオ)、3.5mm Φステレオミニコネクタ (1x ステレオ) とエンベデッドオーディオをサポートしています。
CORIO2.5 エンジン内では、バックカラーと静止画、ロゴを加えることが可能です。

1.8 入出力 (C2-2855)

	入力	出力	備考
HDMI	Yes	Yes	
Universal DVI	Yes	Yes	DVI-D、DVI-A 変換アダプターを使用して HDMI、PC/HD、CV & YC に対応 *
3G/HD/SD-SDI	Yes	Yes	BNC コネクタ
PC/HD	Yes	No	HD15 コネクタ
YC	Yes	Yes	MINI DIN 4pin コネクタ
CV	Yes	Yes	BNC コネクタ
Phoenix Audio	Yes	Yes	3 ×ステレオ入力、1 ×ステレオ出力 (真中のピンが GND)
3.5mm Audio	Yes	No	ステレオライン入力

*RGB、YUV & YPbPr 対応

1.8.1 ユニバーサル DVI

DVI-U は変換アダプタを使って広範囲のデジタル及びアナログ信号に対応します。

これは入力や出力を即時追加できる柔軟性を持っています。

- デジタル: HDMI、DVI-D
- アナログ: DVI-A、RGBHV、RGBs、YUV、YPbPr、CV&Y/C



[2] フロントパネル

2.1 概要

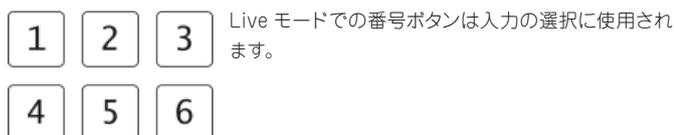
フロントパネルには、メニューを表示する OLED ディスプレイとカラーで光る押ボタンがあり、これらを使用して操作します。

全てのモードはフロントパネルのボタンを使ってアクセスできます。ボタンは複数の機能に使用するために、現在のユニットの状態に応じて異なる色に点灯します。



2.2 使用方法

C2-2X55 は Setup メニューで基本設定後に、Live モードを操作します。



プリセットボタンを押して点灯させた場合、番号ボタンはプリセットを呼び出すために使用されます。



Alt ボタンを長押しするとショートカットメニューにアクセスすることができます。

6 個のオプション

1: Views...	プライマリおよびバックグラウンドのソース選択、フルスクリーンまたは PIP(ピクチャーインピクチャー) の設定、ゲンロックまたはフレームロックの設定、ズームや透明度、ボーダー、クロッピングなどの設定。
2: Keying	Live メニューのキー設定でキーイングを有効にする。
3: Freeze	プライマリビデオのフリーズ (静止)。
4: Logos...	キーイングするロゴのポジション、透明度、ボーダーの設定。
5: Source...	プライマリおよびバックグラウンドソースの選択。
6: Audio...	映像出力に埋め込む音声入力を選択。

2.3 OLED ディスプレイ概要

OLED ディスプレイは 4 行表示に有用な情報を表示します。このディスプレイでメニューツリーや現在のユニットの設定情報を見ることができます。



現在操作中のメニューの項目が左上に表示されます。



右上のステータスインジケータは現在の設定状態をアイコンで表示します。



選択されるとライトグレイに、ナビゲーション中はダークグレイに表示されます。非選択はブラックです。



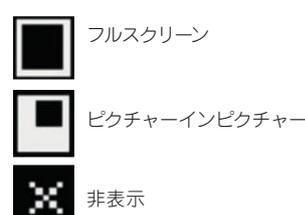
2.4 プライマリ / バックグラウンドのインジケータ

OLED ディスプレイは、プライマリやバックグラウンドレイヤーの設定情報をアイコンで表示します。



現在の設定情報をアイコンで表示します。

▼ Primary Video Layer



▼ Background Video Layer



[3] メニュー概要

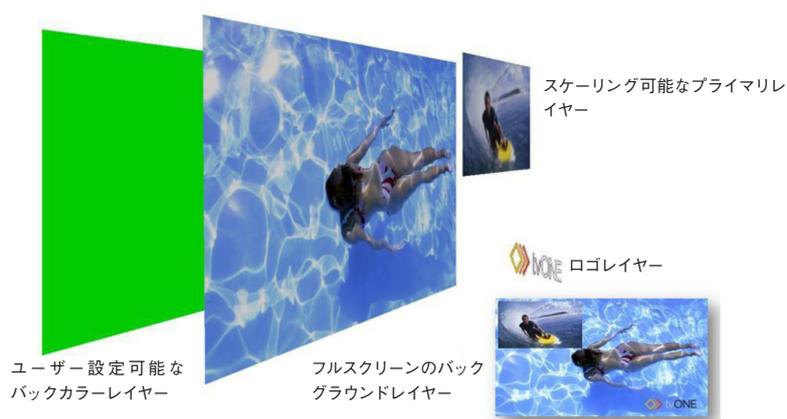
Setup, Live, Shortcut の 3 つのメインメニューがあります。

Setup メニューはユニットのシステム設定を提供し、Live と Shortcut メニューはオペレーションの機能を提供します。

Menu	Functions
Setup	システム設定、入力/出力、レイヤー、プリセットおよびトランジション設定。
Live	プリセット呼出、ソース切替、PIP (ピクチャーインピクチャー) 操作、レイヤー切替、オーディオ切替、ロゴ選択、映像フリーズ、フェードブラック。
Shortcuts	Views、Keying、Freeze、Logos、Source、Audio メニューへのクイックアクセス。

メニューの詳細はこの取扱説明書の後ろの章で見ることができます。

3.1 レイヤーコントロール



C2-2X55 はロゴ、プライマリ、バックグラウンド、バックカラーのレイヤリングをコントロールできます。

プライマリレイヤーはスケーリング、キーイングとアスペクト比の選択が可能です。

各レイヤーで利用可能な設定を以下の表に示します。

レイヤー	ソース	レイヤー	スケーリング	視認性	備考
ロゴ	インポートしたロゴ	常に他のレイヤーの前面	不可	表示/非表示	ロゴは付属のソフトウェアを使ってインポートします。表示位置や透明度を変更して背面の映像に合成可能。
プライマリ	すべての入力と静止画 (SIS)	バックグラウンドと入れ替え可能	利用可能	表示/非表示	付属のソフトウェアを使ってインポートします。静止画はプライマリレイヤーでのみ使用可能。
バックグラウンド	すべての入力	プライマリと入れ替え可能	不可	表示/非表示	
カラーフィールド	ユーザー定義 RGB カラー	常にほかのレイヤーの背面	不可	常に表示されますが、他のレイヤーがフルフレーム表示になっていると隠れてしまいます。	

3.2 レイヤーの入替

プライマリとバックグラウンドはレイヤーを入れ替えられます。P/B（プライマリが上）と B/P（バックグラウンドが上）があります。

▼プライマリ/バックグラウンド

静止画はプライマリにしか適用できません。静止画の上にキーイングしたい場合にレイヤーの入替をします。

▼バックグラウンド/プライマリ

B/P でバックグラウンドを上に入れ替えます。Live メニューで解説者の映像をキーイングします。

この例は、天気図と解説者の映像があります。



3.3 外部同期、フレームロックと非表示



バックグラウンドのビデオ信号に同期した出力にすることができます。状態は OLED ディスプレイに表示されます。

プライマリ入力だけの場合は、スケーリングで出力解像度を設定することができます。プライマリとバックグラウンド両方に入力する場合は、出力はバックグラウンドに同期させなければなりません。

いくつかの異なる構成があります。

	可能な構成
プライマリ	フルスクリーン、PIP、非表示を選択。
バックグラウンド	フルスクリーンと同期 (Genlock) *、非表示と同期、非表示とフレームロック、フルスクリーンとフレームロック (Framelock)*。

* Genlock = 出力解像度とフレームレートはバックグラウンドのビデオになる。

* Framelock = 出力解像度はスケーリングできるが、フレームレートはバックグラウンドのビデオになる。

3.4 スケーリング概要

CORIO2.5 エンジンには柔軟なツールであり、多くの異なる設定を提供します。

Crop	映像の中の表示したい領域にクロッピングできます。
Place	サイズと表示位置を設定できます。
Image Flip	映像の左右反転や上下反転をすることができます。ビデオプロジェクターを天井に着けたときなどに役立ちます。
Border	PIP で縮小した映像の淵にボーダーを付けることができます。ボーダーの幅と色を設定できます。
Keying	キーイングはクロマキーとルミナンスキーを選択できます。
Image Smoothing	エッジのジャギーをスムーズに補正することができます。モードは「オフ」、「弱」、「強」、「自動」の4つがあります。自動はスケーリングのズーム量に応じて適正な補正をします。
Flicker Reduction	CV または YC コネクタから入力された NTSC や PAL などの低解像度なインターレース信号ではフリッカーが起こります。このフリッカーを低減させる設定があります。4段階から選ぶことができますが、強くするとディテールがぼやけることになるので、可能な限り弱くすることが必要です。
Temporal Interpolation	フレームレートを変換する場合、隣接したフレームを繰り返し追加します。たとえば、50Hz の入力信号を 60Hz で出力する場合毎秒 10 フレームが追加されます。隣接フレームをマージする時間補間を使用することで滑らかな補間を実現しています。

3.5 アスペクト変換

入力と出力のアスペクト比を任意に設定することができます。

Fill	画像は出力解像度を満たすよう表示されます。アスペクト比は維持されません。
H-Fit	画像は水平解像度をフィットさせるように表示されます。
V-Fit	画像は垂直解像度をフィットさせるように表示されます。
1:1	画像は入力のピクセルと出力のピクセルが 1:1 となるように表示されます。

3.6 ログの挿入

CORIOcontrol ソフトウェアでロゴデータを5つまでインポートすることができます。インポートしたロゴはスーパーインポーズ ON/OFF だけでなく、表示位置や透明度を設定することができます。

3.7 静止画 (SIS) の挿入

CORIOcontrol ソフトウェアで静止画データを5つまでインポートすることができます。インポートした静止画はプライマリのビデオソースとして使用できます。

[4] ボタン操作

4.1 電源をオンにする



フロントパネルの電源ボタンはスタンバイモードからの電源の ON/OFF に使用します。不用意な電源 OFF を防止するために、長押しするようにになっています。

オン/オフボタンは 4 種類の動作モードがあります。

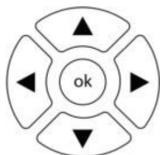
オン/オフ	ほかのボタン	本体の状態
赤	オフ	電源アダプターが接続されスタンバイ状態。
白	すべて白	オン/オフボタンが選択され、本体は初期化中。
消灯	点灯	本体は運転中。
緑	オフ	本体のディスプレイはオフ、いずれかのキーを押すと再起動。

4.2 ボタンの色

パネルのボタンは、迅速な選択を可能にするために、選択したメニューの状態によって使用可能なボタンを様々な色や点灯 / 消灯でわかりやすくしています。

Red	プリセットの選択、スタンバイ中のユニット、そして有効なオーディオソース
Orange	ソース選択
White	利用可能なメニューの選択
Unlit	使用不可能なメニュー
Purple	プライマリ / バックグラウンドのオーディオ選択
Blue	ショートカットとオーディオミュート

4.3 メニューのナビゲーション



これらのナビゲーションボタンは、メニューの移動や選択に使用します。使用可能なボタンはバックライトで強調されています。

OK ボタンを長押しすると、次回ユニットの電源を再投入した時に使われるシステム設定が保存されます。

戻るボタンは押すごとにホームメニューに戻っていきます。

Alt ボタンは、1~6 のボタンで 7~12 にアクセスするときに使用します。Alt ボタンを押すと 1 のボタンが 7 のボタンになります。Alt ボタンを 3 秒間長押しするとショートカットメニューにアクセスします。

4.4 ソースの選択とプリセットの読み込み



これらのボタンはソース選択、メニュー項目の選択、プリセットの呼び出しに使用されます。



プリセットボタンはプリセットの呼び出しのために 1~6 のボタンと組み合わせて使用します。

Presets - プリセットボタンを押すとプリセットモードになります。次に呼び出したい番号 (1~6) ボタンを押すとそこにメモリーしたプリセットが呼び出されます。



Sources - 戻るボタンを押すとトップメニューまで 1 段階ずつ戻っていきます。トップメニューから「Live」>「Primary」または「Live」>「Background」に移動し、番号 (1~6) ボタンを押すとソースが切り替わります。

4.4.1 プリセットの操作

プリセットボタンを押して、次に番号 (1~6) ボタンを長押しするとその番号に現在の状態を保存します。	
プリセットボタンを押して、次に番号 (1~6) ボタンを短く押し、その番号に保存したプリセットを呼び出します。	
プリセットボタンを押して、次に番号 (1~6) ボタンを保存よりも長く押し続けると保存したプリセットを消去します。	
プリセットボタンを長押しすると、デフォルトプリセットに書き換わります。	
プリセットボタンを押して、次に Alt ボタンを押すと番号 (1~6) ボタンで 7~12 にアクセスできます。	

4.4.2 ソースの切替

ソースの切替は番号 (1~6) ボタンを短く押しします。	
設定のアクセスは右ボタンを押します。	

4.5 その他の便利な選択

戻るボタンを押すとメニューの階層がひとつ戻ります。	
OK ボタンを長押しすると、「Settings Saved」が表示されます。	
Alt ボタンを押しながら戻るボタンをピープ音が鳴るまで押し、フロントボタンがロックされます。	
OK ボタンと戻るボタンとスタンバイボタンの 3 つを同時に 3 秒間押し続けるとピープ音が鳴り、ファクトリーリセットされます。	

[5] ショートカットとライブメニュー

5.1 概要

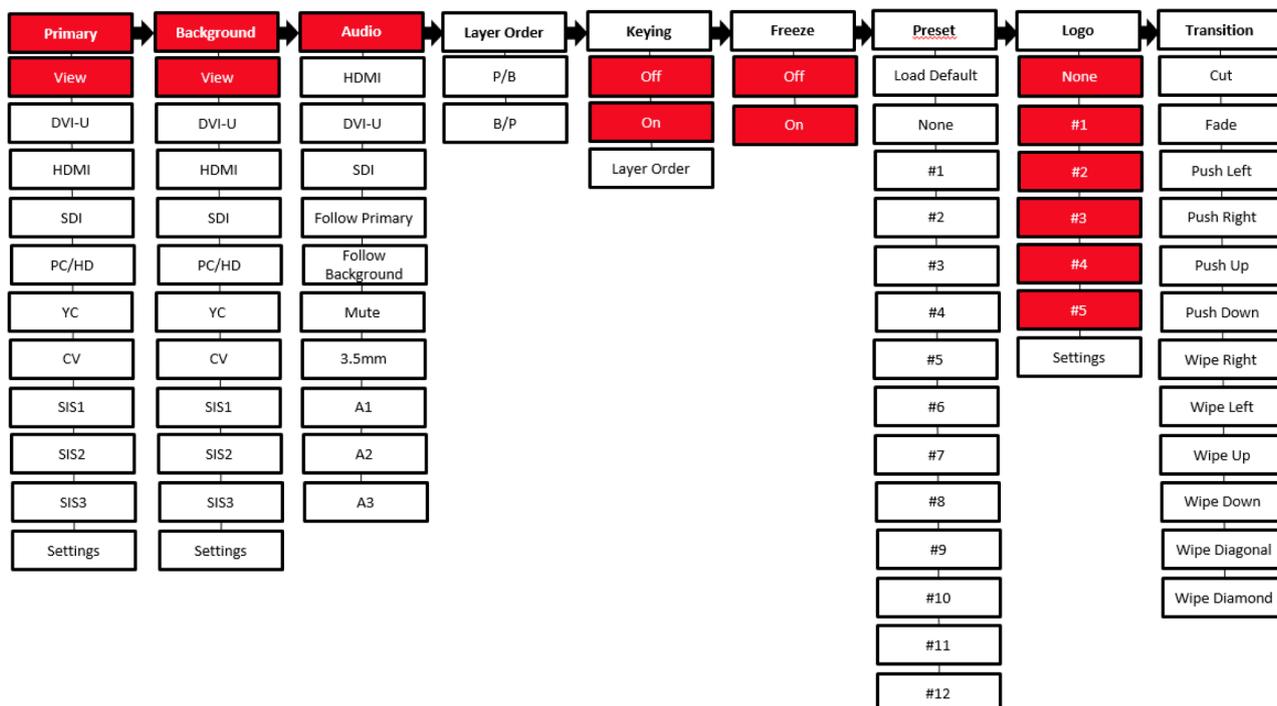
セットアップメニューで基本設定が完了したら、通常の運用はライブメニューとショートカットメニューを使用します。ライブメニューからもセットアップメニューの関連する項目にアクセスできます。

基本的には次の4つの方法の何れかで操作します

Presets			最大 12 個のプリセットを保存し、任意のプリセットを瞬時に呼び出すことができます。プリセットを呼び出すにはプリセットボタンを押して番号(1~6) ボタンを押します。Alt ボタンを押すと、番号ボタンは 7~12 になります。
入力切替			Live メニューのプライマリまたはバックグラウンドを選択しているときに番号ボタン(1~6) を押すことで入力切替をすることができます。番号 1 = DVI、番号 2 = HDMI、番号 3 = SDI、番号 4 = PC/HD、番号 5 = YC、番号 6 = CV になります。
ショートカットメニュー			Alt ボタンを 4 秒間押したままにするかホームメニューからショートカットメニューに移動したあとに番号ボタンを押すとショートカットメニューを選択することができます。番号 1 = ビュー、番号 2 = キーイング、番号 3 = フリーズ、番号 4 = ロゴ、番号 5 = ソース、番号 6 = オーディオになります。
Live メニュー			Live メニューに行くには、戻るボタンを繰り返し押し続けてホームメニューに戻ると Live メニューが選択できるようになります。

5.2 ショートカットと Live メニューのツリー

ショートカットメニューを使うと Live メニューのよく使う項目へ瞬時にアクセスすることができます。以下のツリー上に赤色で示してあるのがそれです。



5.2.1 ショートカット

ショートカットメニューは最も使用される設定に簡単かつ迅速にアクセスすることを提供します。ショートカットメニューはホームメニューからアクセスするか Alt ボタンを長押しすることでアクセスできます。そして番号ボタン(1~6)により必要としている項目にアクセスします。

1	Views	入力切替、PinP やりファレンス設定の変更をするためのプライマリ及びバックグラウンドメニューにアクセスできます。
2	Keying	キーイングの ON/OFF の切替にアクセスできます。キーイングの設定は Live メニューあるいはセットアップメニューから設定可能です。
3	Freeze	プライマリ映像のフリーズ ON/OFF にアクセスできます。
4	Logos	保存されているロゴにアクセスできます。
5	Sources	入力切替、PinP やりファレンス設定の変更をするためのプライマリ及びバックグラウンドメニューにアクセスできます。
6	Audio	出力させる音声を選択するメニューにアクセスできます。

5.2.2 Live メニュー

Live メニューはシステムの初期設定に基づいた通常の操作中に使用される主要なタスクにフォーカスされています。戻るボタンを長押しすることで Live メニューにアクセスできます。

Primary	ソース選択 (フルスクリーン、PIP または非表示)。
Background	ソース選択 (フルスクリーンか非表示か不使用)。
Audio	プライマリ映像の音声、バックグラウンド映像の音声、外部入力 (A1, A2, A3, 3.5mm φ) あるいはミュート。
Layer Order	プライマリとバックグラウンドのレイヤー入替。
Freeze	プライマリ画像のフリーズ。
Preset	プリセット呼出、保存、消去、デフォルト。
Logo	ロゴ選択。
Transition	トランジション選択。

5.2.3 プライマリ

プライマリメニューはソースの切替、ソースの設定およびクロッピング、キーイング、配置やボーダー付加などのスケーリングを伴う PinP モードを設定できます。

View	入力はフルスクリーン、PinP または非表示に設定できます。
Source Selection	プライマリメニューに入り目的のソースに移動して OK ボタンを押すか、番号ボタン (1~6) を一つ押すことで素早くソース切替ができます。
Source Settings	詳細についてはこの取扱説明書の「7 設定メニュー」(14 ページ) の章を参照してください。

5.3 バックグラウンド

View	<p>入力は、フルスクリーン (Genlock)、非表示の Genlock か Framelock、またはスケーラー (None) のいずれかに設定できます。</p> <p>Genlock はバックグラウンド入力の解像度とフレームレートに出力を固定します。Framelock はユーザー設定の解像度を使用しますが、フレームレートはバックグラウンド入力にロックします。</p> <p>スケーラー (None) を選択するとユーザー設定の解像度、フレームレートを使用します。</p>
View Settings	バックグラウンドソースを選択すると、入力解像度の表示とバックグラウンド映像の透明度を設定することができます。
Source Selection	プライマリメニューに入り目的のソースに移動して OK ボタンを押すか、番号ボタン (1~6) を一つ押すことで素早くソース切替ができます。
Source Settings	詳細についてはこの取扱説明書の「セットアップ」の章を参照してください。

5.4 オーディオ

さまざまなオーディオ入力を持ち、それを出力にエンベッドすることができます。

Audio Output Selection	オーディオは、HDMI、DVI-U、SDI、ステレオミニ、フェニックスコネクタ (A1,A2,A3) から選択でき、出力にエンベッドできます。
Audio Follow	オーディオ出力は、プライマリ音声またはバックグラウンド音声のいずれかに連動するように設定できます。
Mute	音声を出力する必要が無い場合は、ミュートに設定できます。

5.5 レイヤーの順序

プライマリとバックグラウンドのレイヤを変更することができます。

P/B	このモードではプライマリがバックグラウンドの上に表示され、スケーリングやキーイングをプライマリに適用することができます。
B/P	バックグラウンドがプライマリの上に表示され、キーイングをバックグラウンドに適用することができます。

静止画 (SIS) はプライマリレイヤにのみ適用できます。一般的に静止画をキーイングすることに使用されます。

この例では、天気図 (静止画) と解説者のビデオ入力があります。



Primary/Background

レイヤーを B/F に設定しライブメニューでキーイングを適用するだけです。



Background/Primary

5.6 キーイング

キーヤーはブロードキャスト及びデジタルサイネージアプリケーションに使用でき、有効または無効にすることができます。

ブロードキャスト用途にブルースクリーンやグリーンスクリーンなどを背景にした映像を、あらゆるバックグラウンド映像にクロマキーで合成することができます。



デジタルサイネージ用途にはルミナンスキーで合成することができます。



キー値の設定はこの取扱説明書の「セットアップ」の章を参照してください。

5.7 フリーズ

フリーズはプライマリレイヤーの映像がフレーム静止します。

5.8 プリセット

メニューは保存されたプリセットとデフォルトのプリセットにアクセスします。

5.9 ロゴ

保存された5つのロゴから1つを選択します。

5.10 トランジション

さまざまなトランジションタイプ(カット、フェード、プッシュ、ワイブ)から選択し、右ボタンを使ってデュレーションを設定することができます。

[6] 一般的な操作

6.1 ソースと出力の設定

6.1.1 ソース設定

新しいソースを設定するには、システムメニューに入りソースメニューで入力、静止画、ロゴの何れかを選択できます。

次に必要な入力を選択します。この例ではHDMIを選択しています。

HDCP	HDCPのデフォルトモードはOFFです。HDCPソースの場合はONを選択してください。
Aspect Ratio	アスペクト比を選択できます。「Fill」は画面に合わせて画像を伸ばします。「Aspect」はソースのアスペクト比を維持します。「H-fit」は画像を水平にフィットします。「V-fit」は画像を垂直にフィットします。「1:1」はソースのピクセルサイズ通りに出力します。

6.1.2 出力設定

出力を設定するには、「System」メニューに入り、「[Sources]」を選択し、「[Connector]」を選択します。この例ではHDMIを選択し、主なメニュー項目は以下の通りです。

HDCP	HDCPのデフォルトモードはOFFです。HDCPソースの場合はONを選択してください。
------	---

次に「[Outputs]」メニューに戻り、「[Video]」サブメニューを選択します。主なメニューは次の通りです。

Resolution	多数のプリセット値から選択した解像度を選択します。
Enable Layers	「Back Color」のみを表示し、プライマリとバックグラウンドの両方を非表示にできます。

注：解像度の設定はバックグラウンドビューモードが「None」または「Hidden」のときのみ効果があります。

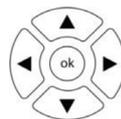
6.2 ソース選択

ソースを切り替えるには、「[Live]」メニューの「[Primary]」または「[Background]」を選択します。使用可能なソースボタンが点灯します。

DVI-U*	HDMI	SDI	プライマリソースの切替はシームレスに切り替わります。
1	2	3	
4	5	6	バックグラウンドソースを切り替えると、出力が新しいバックグラウンドにロックされます。
PC/HD	YC	CV	注：YC、CV、PC/HD、HDMIは同じ入力ゲートを使用するので、バックグラウンドに使用されているときはプライマリには使用できません。その逆も同様です。ユニバーサルDVIアダプタを使用してDVI-Uを使用してください。

6.3 トランジションのカスタマイズ

「[Live]」メニューで「[Transition]」メニューまでスクロールします。さまざまなトランジションタイプ(Cut、Fade、Push、Wipe)から選択し、デュレーション時間を設定することができます。



「OK」を押して「[Transition]」メニューに入り希望のトランジションタイプにスクロールします。「OK」または対応する番号ボタンを押して選択します。トランジションを選択したら、右矢印ボタンを押すと「[Duration]」メニューに移動します。「OK」を押し上下の矢印ボタンを使用してデュレーション時間を設定します。

Cut	瞬時に切り替わります。
Fade	0秒～999.9秒に設定可能。
Push	0秒～999.9秒に設定可能。
Wipe	0秒～999.9秒に設定、ワイブサイズも設定可能。

6.4 PIP (ピクチャーインピクチャー) 効果の作成

6.4.1 プライマリレイヤーのサイズ変更

PIPを作成するには、まず「Live」メニューに入り「Primary」>「View」>「PIP」の順に選択します。これによりプライマリレイヤーのサイズが変更されます。次のメニュー項目にアクセスできます。

Primary	プライマリレイヤーのソースを選択。
Resolution	現在の解像度とフレームレートが表示されます。
Zoom	PIP内の現在のズーム設定：これを増やすと画像が拡大します。ズームされている場合は、「Pan H」水平および「Pan V」垂直のポジションを選択できます。
Size	PIPのサイズ：PIPのサイズを縮小しすぎると（14%以下）、スケーリングエラーを発生することがあります。
Crop	ソースのクロッピング。
Opacity	ソースの透明度。
Flip Image	「Flip」はソースを上下左右に反転させることができます。
Freeze	ソースの静止画。
Border Active	PIPにボーダーを追加します。ボーダーの幅、オフセット、透明度および色を選択できます。
Fade Out	「Fade」はPIP画面を消えるようにフェードします。
Enhancements	その他、画像スムージング、チラつき低減、時間補間などの機能があります。

6.4.2 バックグラウンドの追加

「Live」>「Background」>「View」メニューからフルスクリーンを選択します。以下を参照。

Full Screen	このモードではPIPモードのときにバックグラウンドがフルスクリーンで表示されます。出力はバックグラウンドソースに自動的に同期します。
Hidden(Genlock)	バックグラウンドの画像は表示されませんが、出力はバックグラウンドソースの解像度とフレームレートにロックされます。
Hidden(Flamelock)	バックグラウンドの画像は表示されませんが、出力はバックグラウンドソースのフレームレートに同期します。出力解像度はユーザーが任意に設定できます。
None(Scaler)	バックグラウンドは使用されません。スケーラーとして使用するときに設定します。

6.5 バックカラーの追加

バックカラーは常にビデオレイヤーの背後にあり、デフォルトでは黒に設定されていますが、RGB値を調整することができます。



バックカラーを変更するには、「Setup」>「Layers」>「Back Color」に移動します。デフォルトのRGB値は16/16/16で黒を表します。

6.6 静止画を背景として追加

静止画(SIS)はCORIOcontrolソフトウェアを使用してPCからC2-2X55にアップロードします。静止画はプライマリレイヤーのソースとして使うことができ、PIPモードでも使用できます。また、レイヤースワップ(B/P)をすると背面画像として使用できます。

この例では、天気図の静止画と解説者のビデオ入力があります。



Primary/Background

レイヤをB/F (Background over Primary) に設定してから、「Live」メニューの「Key」に移動し、クロマキーを適用します。



Background/Primary

- ① 静止画を選択：「Live」>「Primary」メニューに移動し、メニューのスクロールから任意の静止画(SIS)をOKボタンを押して選択します。
- ② ビデオソースを選択：「Live」>「Background」>「View」メニューに移動しフルスクリーンを選択する前に、「Background」メニューで入力ソースを選択します。
- ③ レイヤースワップ：「Live」>「Layer Order」メニューに移動しB/Pに設定すると、ビデオソースの背景に静止画が表示されます。
- ④ キーイングを有効にする：「Live」>「Keying」メニューに移動しキーを有効にしてから「Live」>「Keying」>「Settings」メニューのYUV値やソフトネスを使用してキーを調整します。

6.7 ロゴの追加

ロゴは CORIOcontrol ソフトウェアを使用して PC から C2-2X55 にアップロードします。ロゴメニューから位置やサイズ、透明度、ボーダーを調整することができます。



ロゴの選択はショートカットメニューのボタン4を押し、上下ボタンで下にスクロールさせると任意のロゴを選択できます。

6.8 バナーの作成



キーイングを使用して画面下部にバナー領域を作成します。「Live」>「Primary」>「keying」メニューに移動しキーを有効にします。デフォルトでは黒に設定されていますのでマイナスキーとして動作します。「Live」>「Keying」>「Settings」メニューの YUV 値やソフトネスを使用してキーを調整します。キーを反転することもできます。次に「Live」>「Background」>「View」メニューに移動し、フルスクリーンを選択して背景ビデオを有効にします。

6.9 オーディオソースの選択

さまざまなソースからオーディオを選択できます。「Live」>「Primary」メニューに移動し「Audio」までスクロールしてください。いくつかのオプションが利用可能です。

Follow Primary	プライマリレイヤーのオーディオが聞こえます。
Follow Background	バックグラウンドレイヤーのオーディオが聞こえます。
Mute	オーディオは選択されません。
Alternative Inputs	ステレオミニ (3.5mm) 端子やフェニックス端子 (A1,A2,A3) を選択できます。ラインレベルのステレオペアです。

[7] 設定メニュー

このセクションでは C2-2X55 が受け付ける様々な入力と出力について解説します。

System	操作、表示、ナビゲーション、ステータス、オートセット
Sources	入力、SIS、Logo 設定
Outputs	端子、映像、音声
Preset	デフォルトロード
Layers	ロゴ、プライマリ、バックグラウンド選択、バックカラー、レイヤー順序
Transition	トランジションタイプ、サイズ、デュレーション

7.1 初期設定

付属の電源ユニットと任意の入出力を接続してください。C2-2X55 をリモートしたい場合は LAN または RS232 接続を使用できます。

7.2 接続

背面パネルは色分けされており、確認が容易です。

黒	入力
グレー	出力
黄色	電源 & コントロール

スケール出力端子:

オーディオ (フェニックス)、CV(BNC)、YC (ミニ DIN)
DVI-U(DVI-D、DVI-A 変換アダプター経由 HDMI、PC/HD、CV&YC)、HDMI、3G/HD/SD-SDI(BNC)



4 コントロール & アップロード用接続:
イーサネット、RS-232

入力端子:

PC/HD(HD15)、YC (ミニ DIN)、CV(BNC)、オーディオ(3.5mm&フェニックス端子)、HDMI、DVI-U(DVI-D、DVI-A 変換アダプター経由 HDMI、PC/HD、CV&YC)、HDMI、3G/HD/SD-SDI(BNC)

注: 写真は C2-2855 です。モデルによっては無い端子があります。

広範囲の入出力に対応しています。

	入力	出力	備考
HDMI	Yes	Yes	
DVI-U	Yes	Yes	DVI-D、DVI-A、HDMI、PC/HD、CV & YC.
3G/HD/SD-SDI	Yes	Yes	BNCコネクタ
PC/HD	Yes	No	HD15 コネクタ
YC	Yes	Yes	Mini DIN 4P コネクタ
CV	Yes	Yes	BNC コネクタ
Phoenix Audio	Yes	Yes	3 × ステレオ入力、1 × ステレオ出力 (真中が GND)
3.5mm Audio	Yes	No	ステレオライン入力

7.2.1 HDMI

HDMI 入出力は V1.4 をサポートしています。最大解像度とフレームレートは 1920x1080p/60Hz です。DVI-U 端子に変換アダプターを使用すれば、HDMI 入出力になります。

7.2.1.1 HDCP マネージメント

デジタルオーディオおよびビデオコンテンツの不正なコピーを防止する著作権保護 HDCP に準拠しています。HDCP データは HDCP メニューでパススルーさせることができます。

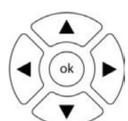
7.2.1.1 EDID マネージメント

EDID 情報をパススルーするか、ディスプレイから読みだして保存することができます。

変更は再起動後に適用されます。

利用可能ないくつかのオプションがあります。

Monitor DVI-U	DVI-U 出力に接続されたモニターから EDID 情報を取得します。
Monitor HDMI	HDMI 出力に接続されたモニターから EDID 情報を取得します。
Default DVI-U	DVI-U 端子のネイティブ解像度は 1920 × 1200p60Hz になります。DVI-U 端子を介して HDMI 信号を使用する場合は EDID 設定を HDMI に変更する必要があります。
Default HDMI	HDMI 端子のネイティブ解像度は 1920 × 1080p60Hz になります。オーディオもサポートします。
#1, #2, #3, #4	保存した 4 つの EDID 情報 (ユーザー定義)。



EDID 情報を読み込んで保存するには、DVI-U または HDMI 端子にディスプレイを接続し、「Source」 > 「EDID」メニューに移動してスクロールから番号 (#1~#4) を選び、OK ボタンをピー音が鳴るまで (約 4 秒間) 押し続けてください。

同一のファームウェアが新しいファームウェアで更新を行なうと、保存した EDID 情報は削除されます。

7.2.2 ユニバーサル DVI

ユニバーサル DVI (DHI-U) は HDMI、PC/HD (VGA)、CV & YC 用の変換アダプタを使用して、それぞれの入出力に対応します。このように DVI-U アダプタはシステム設計に入出力の柔軟性を提供します。

7.2.3 3GSDI/HDSDI/SDI

3GSDI/HDSDI/SDI 入出力は以下に対応します。

	データレート	解像度	オーディオ
SDI	270Mbit/s	NTSC/PAL	1 ステレオペア
HD-SDI	1.485Gbit/s	720p,1080i	1 ステレオペア
3G/HD/SD-SDI	3Gbit/s	1080p	1 ステレオペア

7.2.4 PC/HD (VGA)

PC/HD 入力アナログ RGBHV、RG s B、RGBS に対応します。この入力は HD15 コネクタを使用し、最大 UXGA (1600x1200) と 1920x1080 の解像度をサポートします。また、YUV/YP b Pr (3 値シンクを含む) にも対応しています。

7.2.5 YC/CV

コンポジットビデオ (CV) および S ビデオ (YC) 入力は、ビデオカメラ、VCR、DVD プレイヤー、ゲーム機などの NTSC または PAL 規格に対応しています。PAL と NTSC の検出は自動です。

CV と YC 出力は常に両方が出力され、NTSC または PAL の何れかに設定できます。

YC 端子は 4ピン MiniDin コネクタです。DVI-U 端子に YC 変換アダプタを使用すると BNC 端子の YC 入出力になります。これを 2 番目の入出力としてもお使いいただけます。

CV は BNC コネクタです。2 番目の CV 入力が必要な場合は、DVI-U 入力に CV 変換アダプタを使用してください。

7.2.6 アナログオーディオ接続

本機にはステレオライン入力 (3.5mmx1、フェニックス x3) とステレオライン出力 (フェニックス x1) があります。



7.2.7 フェニックス端子

アナログオーディオ信号は、背面パネルのフェニックスコネクタから入力することができます。

フェニックス端子は、3つの入力と1つの出力をサポートします。

端子の配線は全て同じです。

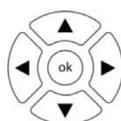
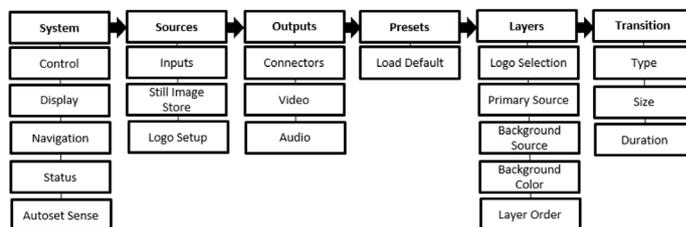
7.2.8 3.5mm 端子

3.5mm (ステレオミニ) 端子は PC などのオーディオを接続するのに使用できます。マイクからの音声を入力する場合は、外部プリアンプでラインレベルに増幅してから入力してください。

7.3 設定メニュー

設定メニューに入るには、「Setup」メニューに移動します

7.3.1 設定メニューのマップ



このナビゲーションボタンはメニュー内を移動したり決定したりするのに使用します。その時に有効なボタンがバックライトで点灯されます。

OK ボタンを長押しすると現在の状態が保存され、次に電源を立ち上げた際にこの設定で立ち上がります。

7.3.2 System メニュー

Control	オート
	イーサネット TCP/IP 通信を使って本機を制御するときに使用します。IP アドレスやポートなどの設定を任意に変更することができます。
	シリアルポート RS-232 通信を使って本機を制御するときに使用します。
Status	ファームウェアのバージョンや電源サイクル、使用時間などを表示します。静止画やロゴ、プリセットの数も表示されます。
Calibrate Sense	キャリブレーションが適切に機能するには、十分に明るいフルスクリーン画像が必要です。画面のエッジを検出するためのセンサレベルには「Low」、「Medium」、「High」、「Vhigh」があります。通常は「Medium」を使用します。

7.3.3 ソース

入力	DVI-U、HDMI、SDI、PC/HD、YC、CV から入力ソースを選択できます。
静止画	CORIOcontrol ソフトウェアを使用して、一般的な画像フォーマット (JPEG、GIFF、PNG など) のファイルを PCX 形式で本体にアップロードし、静止画 (SIS) として使用することができます。本体には、263k の容量の格納場所が 5 つあります。
ロゴ	CORIOcontrol ソフトウェアを使用して、画像ファイルをロゴとしてアップロードすることができます。ロゴファイルの最大サイズは 32,768 ピクセル (128x256 など) で、5 つのロゴを保存できます。

入力信号は「Source」メニューで任意のソースを選択することで設定できます。入力ソースに対する詳細設定メニューは、すべての入力に適用されるわけではありません。下の表はどのメニューがどの入力に適用できるかを示しています。

Input	Audio Source	Input Type	RGB Settings	YUV Settings	Aspect Ratio	Align	On Source	De-Interlace	Noise Reduction	Field Swap	Field Offset	Procamp	Sharpness	EDID	HDOP
DVI-U															
HDMI															
SDI															
PC/HD															
YC															
CV															

7.3.4 オーディオソース

選択したビデオソースからの音声以外にも別のビデオソースの音声を選択したり、3.5mm 端子やフェニックス端子からの音声を選択することもできます。また、「Live」>「Audio」メニューを使って音声をミュートすることもできます。

HDMI	HDMI オーディオ
DVI-U	DVI または HDMI オーディオ
SDI	SDI オーディオ
Follow Primary	プライマリ映像ソースにフォロー (連動)
Follow Background	バックグラウンドソースにフォロー (連動)
Mute	ミュート
3.5mm	3.5mm ステレオライン入力
A1, A2 or A3	フェニックスコネクタ入力

7.3.5 入力タイプ

DVI-U 入力を使用する場合は、自動的に入力タイプを検出するか、手動で入力タイプを設定することができます。

Auto	自動検出
D-RGB	デジタル RGB
D-YUV	デジタルコンポーネント
A-RGB	アナログ RGB
A-YUV	アナログコンポーネント
CV	コンポジットビデオ
YC	S ビデオ

7.3.6 RGB 設定

Calibrate	入力された RGB 信号のアクティブエリアを自動的に検出します。
Input Pixel Phase	アナログ RGB 信号のサンプリングをピクセルの中心で行なうようにすることで、画像の乱れを回避します。
RGB Level	RGB 信号のコントラストを調整します。

7.3.7 YUV 設定

Calibrate	入力された YUV 信号のアクティブエリアを自動的に検出します。
Input Pixel Phase	アナログ YUV 信号のサンプリングをピクセルの中心で行なうようにすることで、画像の乱れを回避します。
YUV Level	YUV 信号のコントラストを調整します。
YUV Black Level	YUV 信号の黒レベルを調整できます。黒レベルは (X デフォルト) から 7.5 IRE の間で調整可能です。

7.3.8 アスペクト比

Fill	入力信号のアスペクト比がどんなものであっても、設定した出力のアスペクト比に合わせて画像をフィットさせます。
H-Fit	設定した出力のアスペクト比の横幅方向をフィットさせます。
V-Fit	設定した出力のアスペクト比の高さ方向をフィットさせます。
1:1	設定した出力のピクセルに入力信号のピクセルを一致させます。

7.3.9 Align

アナログ信号は時々数ピクセル欠落することがあります。キャリブレーションが適切に動作しない場合には手動で調整することができます。

7.3.10 ソース信号が無い場合

このメニューでは、ソース信号が途切れた場合に代わりに表示される内容を設定することができます。ソース信号が途切れた時、青色画面になるか、黒色画面になるか削除かを選択できます。デフォルトは青色画面です。

7.3.11 デインターレース

インターレースビデオ信号はフレーム毎に 2 つのフィールドから構成されています。通常はフィールド 1 と 2 の順番は決まっていますが、一部の信号では順番が間違っている場合があります。このメニューはフィールド処理を修正するのに役立ちます。

Auto	フィルムモードが検出されると、自動的に 3:2 プルダウンが選択されます。通常はミディアムレンジの動き補正モード (M.Comp Med.) で動作します。
Weave	フィールド 1 と 2 を単純に結合します。このモードは入力が静止している場合に使用します。
Film 3:2	24p ソースの場合、このメニューを使用して他のフレームレートで出力する際のフィールド処理を修正することができます。NTSC ビデオで入ってくる場合は 3:2 プルダウン変換を有効にします。(NTSC ビデオでない場合はこのオプションは使用しないでください)
M.Comp.Low	動き補正モードを有効にします。High、Mid、Low の 3 つ
M.Comp.High	の補正レベルを選択できます。
Frame/Bob	2 つのフィールドが連続して表示されます。

7.3.12 斜め補間

このモードは画像の解像度を向上させます。補間機能は画像内にピクセルを追加することで、動画のギザギザ感を低減します。しかし、ノイズが多い画像には適していません。デフォルトではオフになっています。

7.3.13 ノイズリダクション

この機能はインターレースビデオで有効です。動きのないフィールドをマージして、複数のフィールドに渡ってビデオ信号を平均化します。映像にぼやけ感が見られるときは設定をオフにすることをお勧めします。デフォルトはオンです。

7.3.14 フィールドスワップ

入力されたインターレースビデオ信号のフィールド1と2の順序が間違っている場合に、この機能で反転させ滑らかにすることができます。デフォルトはオフです。

7.3.15 フィールドオフセット

この機能はインターレースビデオソースの問題を修正するために使用され、-4～+3フィールドの範囲で調整ができます。

7.3.16 Procamp

この設定はアナログ入力にのみ適用されます。

Brightness	画像の明るさを調整します。
Contrast	画像のコントラストを調整します。
Saturation	画像の彩度（色の濃さ）を調整します。
Hue	画像の色相を調整します。調整範囲は-90°～+90°で、デフォルトは0です。

7.3.17 EDID

本機はディスプレイのEDID情報をパススルーするか、ディスプレイのEDID情報をキャプチャして保存することができます。

変更は再起動後に適用されます。

利用可能ないくつかのオプションがあります。

Monitor DVI-U	DVI-U出力に接続されたモニターからEDID情報を取得します。
Monitor HDMI	HDMI出力に接続されたモニターからEDID情報を取得します。
Default DVI-U	DVI-U端子を使った場合のネイティブ解像度は1920 x 1200p60Hzです。HDMI変換アダプタを使ってDVI-U端子をHDMIとして使用する場合は、EDID設定をHDMIに変更する必要があります。
Default HDMI	HDMI端子のネイティブ解像度は1920 x 1080p60Hzになります。オーディオもサポートします。
#1,#2,#3,#4	EDID情報の読み込み。



EDID情報を読み込んで保存するには、DVI-UまたはHDMI端子にディスプレイを接続し、「Source」>「EDID」メニューに移動してスクロールから番号（#1～#4）を選び、OKボタンをピープ音が鳴るまで（約4秒間）押ししてください。

同一のファームウェアが新しいファームウェアで更新を行なうと、保存したEDID情報は削除されます。

7.3.18 HDCP（著作権保護）

本機はデジタルオーディオおよびビデオコンテンツの不正なコピーを防止するために、HDCPに準拠しています。HDCPデータは、「Setup」>「Source」>「Input」>「HDMI」または「DVI-U」メニューを使用してパススルーに設定することができます。

HDCPはDVI（デジタル信号）とHDMIにのみ適用されます。HDCPで保護された信号をHDCPに準拠しない信号で出力することはできません。

7.4 出力

「Output」メニューは、DVI-U、HDMI、YC、CV出力を設定するために使用します。

Connectors	DVI-U/YC/CV	信号タイプ、デジタル設定、YCおよびCV設定
	HDMI	信号タイプ、HDCP、EDIDキャプチャー
Video	解像度、レイヤー、H/Vポジション	
Audio	プライマリにフォロー（連動）、バックグラウンドにフォロー（連動）、ミュート	

7.4.1 コネクタ

以下に出力端子に関連した設定項目を説明します。

7.4.1.1 信号タイプ

このメニューは出力信号の種類を選択するために使用します

RGBHV	RGB信号と別に水平、垂直の同期信号を必要とするタイプです。
RGsB	RGB信号のGreen信号に同期信号が付加されたタイプです。
TIYUV	Tri-Level YUVとも呼ばれ、アナログハイビジョン信号です。コンポーネントYUV信号に3値シンクが付加されたタイプです。ハイビジョン解像度でない場合は2値シンクになります。

7.4.1.2 デジタル設定

デジタル信号に関連した設定です

HDCP	HDMIおよびDVI信号においてHDCPキー情報をパススルーする場合に、この設定をオンにします。HDCPで暗号化された信号を渡したくない場合は、この設定をオフにしてください。
EDID Capture To	接続したディスプレイのEDID情報をキャプチャする場合に使用します。4つのメモリーを持っています。
Allow HDMI Output	DVI-U端子にHDMI出力を設定する場合に、この設定をオンにします。DVI出力の場合はオフにしてください。

7.4.1.3 YC、CV設定

このメニューではNTSCまたはPALを選択することができます。

7.4.2 ビデオ

この項目では、解像度設定やレイヤー設定および画像位置の微調整をすることができます。

Resolution	内蔵された71種類の解像度情報から簡単に任意の解像度を選択することができます。解像度の範囲はNTSC（487i 59.94Hz）から1920x1200p60Hz Rbまでです。
Enable Layers	このメニューではビデオレイヤーとロゴレイヤーの両方を有効または無効にすることができます。バックカラーのみを表示させることもできます。
H/V	バックグラウンドビデオレイヤーの表示位置を微調整することができます。

7.4.3 オーディオ

このメニューではHDMI、DVI、SDI、3.5mmコネクタ、フェニックスコネクタの様々なオーディオソースを出力に割り当てることができます。また、プライマリやバックグラウンドソースに連動させたり、完全にミュートすることもできます。

7.5 プリセット

このメニューでは、デフォルトプリセットを読み込むことができます。工場出荷時のデフォルトに設定します。

7.6 レイヤー

Logo	5つのロゴを保存でき、その中から任意のロゴを選択し表示することができます。
Primary	「View」メニューからフルスクリーン、PIP、非表示を選択できます。「Source」メニューから DVI-U、HDMI、SDI、PC/HD、YC、CV を選択できます。その他、ズーム、サイズ、クロッピング、透明度、フリーズ、ボーダーなどを設定することができます。
Background	「View」メニューからフルスクリーン、同期非表示、フレームロック非表示、スケーラー（非同期）を選択できます。「Source」メニューから DVI-U、HDMI、SDI、PC/HD、YC、CV を選択できます。その他、解像度、透明度を設定することができます。
Back Color	バックカラーは常にビデオレイヤの背後に位置します。RGB 値を変えることで色を変更することができます。
Layer Order	このメニューではレイヤーの順序を変更することができます。静止画はプライマリレイヤにのみ選択できるため、バックグラウンドとプライマリのレイヤーを入れ替えてクロマキー合成をする使い方ができます。
Keying	プライマリレイヤとバックグラウンドレイヤでルミナンスキーとクロマキーを使用することができます。

7.7 バックカラー

バックカラーは常にビデオレイヤの背後にあり、デフォルトでは黒に設定されています。RGB 値を調整することでキー信号の色を変更することができます。



バックカラーは次の場合に表示されます。

- ①「レイヤーを有効にする」がオフの場合。
- ②プライマリレイヤが PIP でバックグラウンドレイヤにキーまたはアスペクト比が適用されたとき。
- ③プライマリとバックグラウンドがアクティブで、PIP やキーまたはアスペクト比がプライマリに適用され、アスペクト比の変換がバックグラウンドに適用されたとき。
- ④キーイングまたはアスペクト比の変換で、背景のみが表示されているとき。

7.8 ゲンロック (同期)

このメニューではバックグラウンドソースを使用して本機をゲンロック (同期) させることができます。4つの異なる設定があります。

Full Screen	このモードでは出力信号はバックグラウンドソースに同期します。フルスクリーンでバックグラウンドが表示され、プライマリを PIP で使用します。
Hidden (Genlock)	バックグラウンドは表示されませんが、出力の解像度とフレームレートはバックグラウンドソースに同期します。
Hidden (Flamelock)	バックグラウンドは表示されませんが、出力のフレームレートのはバックグラウンドソースに同期します。解像度は任意に設定できます。
None(Scaler)	バックグラウンドは表示されず、同期もされません。

7.9 レイヤーの順序

プライマリレイヤとバックグラウンドレイヤの順序を変えます。P/B はプライマリが前面で、B/P はプライマリが背面になります。



レイヤーの順序をプライマリを前面にしたり、バックグラウンドを前面にしたり、設定することができます。



これはよく使われる方法ですが、プライマリに静止画を選択し、バックグラウンドを前面にスワップし、バックグラウンドの映像を静止画にクロマキー合成することができます。

7.10 キーイング

このメニューでは、クロマキー (ブルーバックやグリーンバックなど) とルミナンスキー (テキストの合成など) を設定することができます。

デフォルトではキーが黒に設定されているのでルミナンスキーで動作しますが、YUV 値を変更することでクロマキーとして動作します。また、ソフトネスで合成を滑らかにすることができます。

キーを反転させることができますので、合成させたい映像の範囲を変えることができます。

7.11 プリセット

このメニューではスケーラーの設定を複数保存し、瞬時に呼び出すことができます。「Preset」メニューで、保存、呼び出し、削除が可能です。

Load	番号ボタン (1~6) を押して離します。メニュー画面に Preset Loaded と表示され、ブザー音がなりプリセットが呼び出されます。
Save	ブザー音が鳴るまで番号ボタン (1~6) を長押しします (約 2 秒間)。メニュー画面には Preset Saved と表示され、設定が保存されます。
Delete	ブザー音が 2 回鳴るまで番号ボタン (1~6) を長押しします (約 5 秒間)。メニュー画面には Preset Deleted と表示され、プリセットが削除されます。

プリセットの呼び出しには次の 3 つがあります。

Load Default	保存したプリセットを消して、工場出荷時のデフォルト状態になります。
None	
Presets #1-#12*	プリセットを呼び出します。

*番号ボタン 7~12 は Alt ボタンを押して使います。

7.12 トランジション

このメニューでは様々なトランジションタイプ(Cut, Fade, Push, Wipe)とデュレーション時間を設定することができます。

Cut	瞬時に切り替わります。
Fade	0 ~ 999.9 秒で設定可能。
Push	0 ~ 999.9 秒で設定可能。
Wipe	0 ~ 999.9 秒で設定可能。ワイプサイズも設定可能。



- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

ヒビノインターサウンド株式会社

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881
E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <http://www.hibino-intersound.co.jp/>